

# 南風

みなみかぜ

寺報 第十号

平成二十六年 春

〒543-0063 天王寺区茶白山二-三十六

電話 〇六-六七七九-九四三五

〇六-六七九四-〇五八三

携帯 〇九〇-二〇四八-三二八九

真宗大谷派 松濤山 南照寺 (なんしやうじ)

編集 発行 南照寺住職 友澤秀三

\*\*\*

いよいよ暖かくなってまいりました。桜が今年も見ごろを迎え、次男の真也もなんとか無事に、小学一年生になる事が出来ました。やんちゃ坊主の彼は、先ほどもカッターナイフで左人指し指をさつくり切ってしまいました。三針ほど縫ってもらってそれで済みましたが、本当に有り難い事です。

\*\*\*

今年三月二十一日がお彼岸の中日でした。南照寺ではその日に「彼岸会」と「永代経」のみならず、「門徒集会」をも兼ねてお勤めいたしました。天候にも恵まれ、沢山の方々にお参りいただけて、ありがたかったです。

「彼岸会」は、春分、秋分に勤まります。「彼岸」は此方側の岸に対する、彼方の岸という意味を強く持つでしょう。また、阿弥陀の浄土は、「西方極楽浄土」とあります通り、西がキーワードです。春分、秋分には太陽が真西に沈みます。試みに一日を一生になぞらえてみれば、夕焼けをただ美しいと見るだけでなく、様々に多くの思いがこみ上げてくるかと思えます。まっすぐ自分に向かって来る赤光に、浄土を欣い(ねがい)求める心が湧き起るのでしよう。「日想観」といって、もともとは出家の修行だったことから始まったようです。

「永代経」も「彼岸会」と同時に勤めて違和感がないのは、無量寿(はてなきいのち)である阿弥陀仏と、

「とんでもない御苦労の結晶である御経が、願わくはこの娑婆世界に永代受け継がれ、願わくは自分の一族有縁に永代届きます事を」

との思いに、相乗的な作用があるからだと思っております。

「門徒集会」は、相互に会う機会のない御門徒方が、一堂に出会える場であります。思いも考えもそれぞれ違う人間が、それでも力を合わせて南照寺を支えてきてくださいました。それは、具体的に仏法弘通を支えてきたということでしょう。

仏法を説いたものが、御経であります。

今回、「永代経」に際して、南照寺に伝わっている「過去帳」を御代前におまつりいたしました。江戸時代に書き写されたものが三冊と、最近までのもの全部を重ねて置いたのですが、保存の状態の悪いものもあって、皆さんに見ていただくことは控えました。

古い法名だけがずらっと並んでいるのですから、その一人ひとりが現在の御門徒とどういう血縁関係にあるのか、これを見ただけでは全くわかりません。しかしながら、この方々の葬儀が南照寺でおこなわれた事は間違いなく、さらにはまわりに親戚縁者を含む多くの有縁の方々があつて、その人々がいのちのバトンを後へ後へと手渡し続けて、ついに二十一世紀の現在にまで繋がっているのは確かな事でしょう。その意味で、只今の御門徒方それぞれに、直接まっすぐに繋がっている方々なのです。

本当にこれは、重いことではないか、と。

いずれ、時間が取れるような時が来たら、新しい紙に書き写したいと思っております。

\*\*\*

讃をあげさせていただくことにいたしました。

第九号に予告していたことなのですが、今。月一回、主に若い人を対象にして、ツイッターキャストという、生で配信できるウェブテレビを使つて少し話をしています。しかしスタツフも初めてのことで、第一回、二回とも機材のトラブル発生、終盤は音声が途切れてしまい、とても成功したとはいえません。が、まあくじけずに続けていこうじゃないの、という周りの応援もありまして、技術的な事を解決しつつ今後に繋いでいきたいと思っております。

第三回目は、単なる対談形式ではなく、何か聞いてもらいたい事をもっている人々に直接来ていただくトークライブ企画らしいので、配信が上手くいかななくても、その場だけは意義ある形で出来るのかな、と期待しています。が、收拾がつかなくなる不安も大いにあります。

とにかく、次回は四月二十五日夜九時から配信とのことなので、準備せねばなりません。

お題は、「煩惱って何？」とのこと。

さらにホームページについても、とにかく棟上げをただけ、という状態ではありますが、一応開設、立ち上げだけはいたしました。

真宗大谷派 松濤山 南照寺

で、検索すれば出てくるのですが、本当にちゃんと内容のあるものにするまで、まだまだ時間がかかりそうです。

何の予備知識もない人がこれを見て、最終的に南照寺を支える御門徒の一人になる、ということであれば、とは思いますが……。

\*\*\*

先日、平野の或るお寺の「同朋会」で、法話の依頼を受けました。村中のお寺で、昼の座とあって、奥様方が中心の御聴聞衆です。

思案しました中で、讚題には親鸞聖人の御和

像末五濁の世となりて  
釈迦の遺教かくれしむ  
弥陀の悲願ひろまりて  
念仏往生さかりなり

只今我々を取り巻く諸問題について、ただ新聞を瞥見するばかりではありませんが、この現代日本もまた、人の心がずさんでしまつて、すっかり濁りきつた世の中であると感ぜずにはいられません。

お釈迦さまが遺してくださつた、心安らかに争いあうことのない悟りを開くための道筋は、非常に辿り難くなつてしまつたように思えます。

かつてあつたはずの、とにかくも尊重されて、譲りあい、与えあつて、いきいき生きてきた人間の「いのちの原風景」へと帰れ、という阿弥陀仏の願いが、今多くの人々の「未来への希望」として広まつていきつつあるようです。

自らが担っている歴史の重みを真摯に受け止めてみれば、自身の欲望をかなえていくことに突き進む私は、結局は行き詰るしかないと感じてはまずです。これまでも間違つてきたし、これからも間違い続ける存在が、どこで真実に出逢えるのか。答えにはなかなか到達しない「問い」をいただく生き方こそ、この時代にぴつたりとしているものだと、確信しております。

\*\*\*

この四月から、住職が不在になつて大変なお寺の手伝いを依頼され、お願いいただいた日に奈良まで出向いております。第二阪奈道路が出来たとはいえ、往復には馬力が要ります。月参りなど、ひよつとして御無理をお願いすることがあるかもしれませんが、何卒寛容な対応をいただけたらと存じます。

行事のある月も、第三土曜日はお勤めの会です。四月十九日、五月十七日、六月二十一日。